

令和6年度 朝日小学校の評価について

(1) 評価方法について

〈具体的取組に関する数値目標の評価方法〉

◇目標を達成するための具体的方策の取り組み状況について、児童及び保護者、教職員対象に、1(はい) 2(だいたい) 3(あまり) 4(いいえ)の4段階でアンケートを取り、その結果について肯定的回答(1、2)の割合から以下のようにA～Dの4段階で評価する。

A: 十分達成	…数値目標及びA回答率達成
B: 概ね達成	…数値目標のみ達成
C: やや不十分	…数値目標達成率5割以上
D: 不十分	…数値目標達成率5割未満

〈重点目標についての総合評価の評価方法〉

◇上記の各数値目標の結果に、教職員の取組状況(資料参照)を加味し、A～Dの4段階で総合的に評価する。

(2) 評価の時期と改善に向けて

◇評価は、1学期末(途中経過の把握)と2学期(年間自己評価)に実施する。

◇目標の取組状況と具体的方策の実施状況を関連させて検証し、課題を明らかにすることによって、方策の改善を図る。

(3) 評価の公表

◇評価結果については、文書やホームページで保護者や地域の人にお知らせする。

令和6年度 年間自己評価 総括表

中期重点目標	具体的方策	数値指標	年間評価
【未来を拓く学力】 主体的・協働的・創造的に探究する力 「できる」と自らを信じられる力	1 ◎個別最適な学び(指導の個別化・学習の個性化)と協働的な学びを一体的に進める。 教科 地域学習 特別支援 ・単元構想 ・「魅力ある学習課題」「対話」「選択」「ふりかえり」 ・ICTの効果的な活用 2 本に触れる機会を増やす。 図書委員会活動 魅力的な図書環境 外部機関との連携 広がりを生み出す働きかけ	◎「自分にあった学習」と「みんなと学ぶ学習」で力を伸ばすことができた 80%(とても60%) ○興味を持って学習を続けた 80%(とても60%) ○昨年度より本に触れる機会が増えた 90%(とても50%)	A
【幸せな社会を創る力】 多様性を認め あたたかくつながり合う力 主体的に 学級・学校づくりに関わる力	1 ◎自分や友達のよさを大切にし支え合う「ことばの力」を育成する。 ・ピアサポートを取り入れた教育活動 ・多様な意見から価値に迫る道徳の授業 ・「人権」「いじめ防止」について考え発信する活動 2 多様なアイデアを生かした学校行事、児童会活動、学級活動により、児童が主体的に活動できるようにする。 学年の枠をといた交流活動を行う。	◎自分や仲間を大切にしている 90%(とても70%) ○みんなで何かをするのは楽しい 95%(とても85%) ○学校や地域で心を届けるあいさつをしている 80%(とても60%)	A
【健やかな心身】 自らの「心・体・生活」を育む力	1 ◎逆境に負けないしなやかな心を育成する。 ・レジリエンスの授業(○) ・「発達支持・課題予防・困難課題」対応の教育相談機能の向上 2 メディア教育を通して、家庭と連携してメディアとのつきあい方について考え、実行できるようにする。	◎つらいことがあっても、元気な心にもどれた 80%(とても50%) ○子どもはメディアを適切に使用している 保護者 80%(とても25%)	B
well beingを実現する学校	1 ◎すべての児童に目を向けた働きかけや活動の設定を大切にすること。 2 児童や保護者と願いを共有する。 「人間性」「ことば」「教師としての力」を磨く。 3 「共生社会を生きる心」「インクルーシブの「視点」を豊かにすること。 4 開かれた研修機会を工夫し、協働的・創造的に教育活動を進める。 5 地域と連携し、探究・発信する活動を行う。 6 常磐小、朝日中、系生小との学びの交流を深める。 7 業務改善と教育の質の向上を一体的に進める。 ・DXの推進・主体性を育む指導・前年度に設定した業務改善策の実践・新日課表による時間の充実 ・超過勤務時間45時間未満の確実な実行	◎子どもは喜んで朝日小学校に通っている 保護者90%(とても50%) ○朝日小学校で働くことに、やりがいを感じている 教職員90%(とても50%)	B

領域別評価表 【未来を拓く学力】

中期重点目標 (育成する力)	主体的・協働的・創造的に探究する力 「できる」と自ら信じられる力
-------------------	-------------------------------------

数値指標 (本年度目標)	◎「自分にあった学習」と「みんなと学ぶ学習」で力を伸ばすことができた。 80% (とても 60%) ○興味を持って学習を続けた。80% (とても 60%) ○昨年度より本に触れる機会が増えた。90% (とても 50%)	年間評価
		A

達成状況										
児童アンケート	「自分にあった学習」と「みんなと学ぶ学習」で力を伸ばすことができましたか。	肯定的回答 94%(とても 64%)	年間評価							
		<table><tr><td>できた</td><td>64%</td><td>だいたいできた</td><td>30%</td><td>あまりできなかった</td><td>5%</td><td>できなかった</td><td>1%</td></tr></table>	できた	64%	だいたいできた	30%	あまりできなかった	5%	できなかった	1%
	できた	64%	だいたいできた	30%	あまりできなかった	5%	できなかった	1%		
	興味を持って学習を続けましたか。	肯定的回答 93%(とても 63%)	年間評価							
		<table><tr><td>続けた</td><td>63%</td><td>だいたい続けた</td><td>30%</td><td>あまり続けなかった</td><td>6%</td><td>続けなかった</td><td>2%</td></tr></table>	続けた	63%	だいたい続けた	30%	あまり続けなかった	6%	続けなかった	2%
	続けた	63%	だいたい続けた	30%	あまり続けなかった	6%	続けなかった	2%		
昨年度より本に触れる機会が増えましたか。	肯定的回答 81%(とても 56%)	年間評価								
	<table><tr><td>増えた</td><td>56%</td><td>まあまあ増えた</td><td>23%</td><td>あまり増えなかった</td><td>13%</td><td>増えなかった</td><td>8%</td></tr></table>	増えた	56%	まあまあ増えた	23%	あまり増えなかった	13%	増えなかった	8%	B
増えた	56%	まあまあ増えた	23%	あまり増えなかった	13%	増えなかった	8%			

<資料>

取組状況		
教職員アンケート	個別最適な学び(指導の個別化・学習の個性化)の方法をイメージできましたか。	肯定的回答 95%(とても 45%)
		できた だいたいできた あまりできなかった できなかった 0%
	個別最適な学び(指導の個別化・学習の個性化)と協働的な学びを一体的に進めることができました。	肯定的回答 75%(とても 15%)
		できた だいたいできた あまりできなかった できなかった 5%
	本に触れる機会を増やす取り組みを行いましたか。	肯定的回答 88%(とても 47%)
		行った だいたい行った あまり行えなかった 行えなかった 0%

年間評価	総括（成果と課題）
	【授業づくりについて】 ・単元や授業では、「魅力ある学習課題」を設定することで児童が学習の見通しをもち、意欲的に授業に取り組めるよう工夫した。 ・「個別最適な学び」については、課題に取り組む場面で「一人で考える」「ペアで考える」「グループで考える」「先生と考える」など、児童が自分に合った学び方を選択し安心して学べるようにした。「学習内容の選択」や児童の必要性に応じた「学習の個性化」については、一層充実が必要である。また、小中合同の授業参観・研究会を行ったことで、学校種の垣根を越えて児童の育ちや授業の在り方について学ぶことができた。 ・「総合的な学習の時間」などの探究的な学習の時間には、自分で学びたいテーマや調べ方を選択し、まとめ、友達や保護者、地域に向けて発表した。しかし、この学習で重要とされている「学びのサイクル」を継続させていくこと（特に自らの考えを更新し新たな課題を見出すこと）に関しては課題が残った。 【ICT の活用について】 ・学習支援アプリを活用して授業を行う機会が昨年度より大きく増えた。次々とアップデートされる新機能についても、担当者がICT通信（教師用）を発刊し、活用を促したことで、多くの教員が授業に取り入れていた。 【読書について】 ・児童と教員、さらには町図書館司書による読み聞かせとブックトークを行ったことで日頃は図書室にこない児童も興味をもって来室し、自分から本を選ぶ姿が見られた。 ・図書委員会による取り組みとして、図書ビンゴとおすすめ図書紹介、そして POP 作りを行った。また、よく読まれる本や貸出上位者などを図書委員が放送して、読書の啓発活動を行った。これらの活動が、いろいろな本について知ったり、本を手にとったりするきっかけとなった。 ・学校図書館スーパーバイザーによる、読書活動推進のための校内研修を行った。その結果、授業の調べ学習で図書室へ行く時間を設けたり、教室近くに本を設置したりと、教員の読書指導への意識の高まりがみられた。 ・図書館に行きたくなるような環境づくりのために児童ボランティアがよかった。十分な活動時間を設定できるとよい。
	改善策
	【授業づくりについて】 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めるには、授業形態を大きく変えていく必要がある。新しい授業の在り方の事例や体験談を交流する場として、職員会議後小グループで話し合う「みんなでトークタイム」を行ってきたが、今後もグループ編成やテーマを工夫しながら継続していきたい。また、教員間でお互いの授業を見合う授業公開の期間などを検討し、気軽に授業を参観し合える体制を整えていきたい。 ・探究的な学習においては、「児童の学習の姿」をイメージし、その過程が繰り返されていくよう年間計画を立てるようにする。 【ICT の活用について】 ・児童用デジタル教科書（算数・英語）が今年度から利用できるようになったため、使い方の研修等や情報交換会を行い、よりよい活用を目指す。 【読書について】 ・本を読む時の様々な観点（人物像や表現の効果など）から「物語のよさ」を楽しく交流できる機会を設けた。 ・よりよい図書環境づくりを進めるために、これまで以上に町立図書館との連携を密にし、学年に応じた柔軟な本の貸し出しを可能にしたり、図書館整備への協力をお願いしたりしていきたいと思う。

未来を拓く学力

主体的・協働的・創造的に探究
できると自分を信じられる

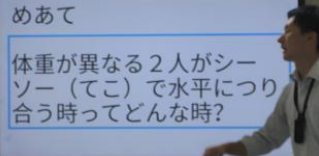
わくわくする！魅力ある学習課題に！



めあての工夫

見通しをもつ

安全・安心な風土



個別最適な学びと協働的な学び



いつでも友達に聞ける座席

タブレットに打ち込んでも、ワークシートに書いてもOK！

これまでの学習を手掛かりにしてもOK！

選択する

自分に適した学習形態の選択

先生と学習している人

じぶんで学習の人

じぶんで学習しながら友達に教えている人



安全・安心な風土

自己決定

使う道具を選択して（理科の実験より）



ミニ天秤と1つ10gの重りを使って



長い棒と水の入ったペットボトルを使って

共感的な人間関係

小中連携事業 授業研究会

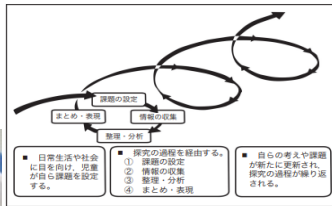


児童の学びの見取り



グループでの話し合い

探究的な学習における児童の姿



文部科学省学習指導要領解説より

ICT **気づきメモ機能**で
他の班の結果を確認



ICT **発表ノート機能**で
自分の考えを発信



教員スキルのアップデート

ICT研修



ICT通信



児童・教職員による読み聞かせ



本を選ぶために、
たくさん本を読みました。



熱心にお話を聞いています。

図書委員会による おすすめ図書紹介



友達のおすすめを知り、
本を手にするきっかけに

学校図書館についての校内研修



領域別評価表 【幸せな社会を創る力】

中期重点目標 (育成する力)	多様性を認め あたたくつなかり合う力 主体的に学級・学校づくりに関わる力
-------------------	---

数値指標 (本年度目標)	◎自分や仲間を大切にしている。90%(とても 70%) ○みんなで何かをするのは楽しい。95%(とても 85%) ○学校や地域で心を届けるあいさつをしている。80%(とても 60%)	中間評価
		A

達成状況			
児童アンケート	自分や仲間を大切にできましたか。	肯定的回答 95%(とても 77%)	中間評価
			A
	みんなで何かをするのは楽しいですか。	肯定的回答 97%(とても 83%)	中間評価
			B
	学校や地域で心を届けるあいさつができましたか。	肯定的回答 90%(とても 62%)	中間評価
			A

<資料>

取組状況			
教職員アンケート	自分や友達のよさを大切に、支え合う「ことばの力」の育成に努めましたか。	肯定的回答 100%(とても 42%)	
	児童が主体的に活動できるよう指導・支援を工夫しましたか。(多様なアイデアを生かした行事、児童会、学級活動)	肯定的回答 89%(とても 44%)	
保護者アンケート	朝日小学校の児童は地域であいさつをしていますか。		
		肯定的回答 72%(とても 21%)	

年間評価	総括（成果と課題）
	【ピア・サポートについて】 ・学校行事や校外学習、宿泊研修、修学旅行などで自分や友達のよかったところを共有する活動を通して、自他を大切にする心が育ってきている。体育大会の練習では、上級生が下級生に応援を優しく教える姿が見られた。本番では、全校児童が楽しめるような学年競技を取り入れ、学校全体に一体感が生まれた。体育大会後には、「あさひの木」を児童玄関に掲示し、お互いの頑張りを認め合ったり、感謝を伝えたりした。 【道徳・人権について】 ・「友情」を価値項目とした教材を中心に道徳科の公開授業を行い、授業後には実践力向上に向けて話し合う時間を設けた。児童の多様な意見から価値に迫るために教材研究を行い、学年で共有することで、児童の道徳性を養うことにつなげた。ねらいに迫る道徳授業の全校的な充実が大切だと考える。 ・日頃より教員が「いじめは許さない」という姿勢で、児童の人を傷つける言葉に対して適切に指導すると共に、あたたかなまなざしや愛情をもった言葉掛けで児童と接することを心がけた。人権週間には、低学年の人権教室では読み聞かせ、縦割り班活動では「人権カルタ作り」を行った。異学年で意見交換することで、「人権を守ることの大切さ」を再確認することができた。一方、児童が心無い言葉を使う様子も見られる。言葉の重みについて知識にとどまることなく価値・態度・技能のレベルで豊かに育てることが必要である。 【児童会活動について】 ・児童同士があたたくつながり合う活力のある学校を創るために、各委員会ではそれぞれのアイデアを出し合い、企画・運営を進めることができた。例えば、児童会ではわくわくタイムで今までにない新しい取り組みに挑戦し、学校全体を盛り上げることができた。生活委員会では「あいさつカレンダー」を行ったり、放送委員会が放送を楽しめるような話題を提供したりした。 ・学校のきまりの見直しでは、3年生以上が学級会できまりに対する意見を出した。そこから実行委員が中心となって「かがやく笑顔で楽しく過ごせる学校」をスローガンにかかげ、自分たちで校則の見直しを図ることで、主体的に学校づくりに参画する姿が見られた。実行委員以外の児童が関わる機会を増やせるとよかった。 【あいさつについて】 ・保護者アンケートから地域の方への児童のあいさつについては、課題が見られる。校内での児童のあいさつは、活発に行われるようになってきた。
	改善策
	【ピア・サポートについて】 ・学校行事を中心にピア・サポート活動を継続して行い、自分や友達のよさを認め合う心を育てていきたい。 【道徳・人権について】 ・道徳科の授業公開を計画的に行い、学年間や他学年の授業を参観する機会を設けたり、校内研修を行ったりして児童の心の成長につなげていきたい。 ・児童が相手を思いやる言葉遣いができるように 1 年を通して人権尊重の精神がみなぎる環境づくりと活動の設定を計画していく。 【児童会活動について】 ・今後も、学校という社会をよりよく創造していく取り組みを各委員会から企画し、提案していく。活動内容について、1～4年生の意見も取り入れられるような機会を設け、学校づくりに関わる意識を高める。 ・学年や学級の中で、児童が主体となって活動する機会を増やす。 【あいさつについて】 ・地域の方への挨拶に関しては、登校班の班長を中心に自分から挨拶をするよう指導・声かけをしていく。

幸せな社会を創る力

多様性をみとめつながり合う



主体的に学級、学校をつくる

子どもが生み出す
応援席の新たな形



全学年を主役に。

各チームの団結を高めるために
開会式後に応援合戦を行った。



競技が会場を巻き込む



ピア・サポート



5年と6年
宿泊研修前
ピア・サポート

体育大会
ありがとうメッセージ



スクールカウンセラーによる
ソーシャルスキルトレーニング

道徳教育

役割演技



ICTで
学びの共有



学級全体での
話し合い



人権週間

人権カルタづくり



いじめ対応 全職員で共有

スクールプランの実現

頭だけではなく行動レベルで

傍観者が制裁者や仲裁者へ

内面理解

ことばの力・気持ちを想像する力

アンケート調査

いじめ防止基本方針（ホームページ掲載）

わくわくタイム（たて割り班）



ハロウィン



クリスマス集会



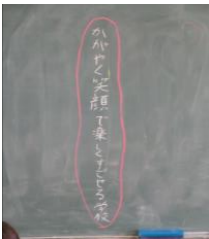
わくわく出し物 発表会



「生活のきまり」の見直し実行委員会

児童の願い

「輝く笑顔、楽しく過ごせる学校」



学級から出た意見をグループ分け



持ち物

身なり

髪

他教室への出入り

4つのグループに分かれて話し合い

各グループからの報告



あいさつ運動

朝のあいさつの様子



あいさつカレンダー



領域別評価表 【健やかな心身】

中期重点目標 (育成する力)	自らの「心・体・生活」を育む力
-------------------	-----------------

数値指標 (本年度目標)	◎つらいことがあっても元気な心にもどれた。80%(とても50%) ○子どもはメディアを適切に使用している。保護者 80%(とても25%)	年間評価
		B

達成状況			
児童アンケート	つらいことがあっても元気な心にもどれたか。	肯定的回答 90%(とても 64%)	年間評価
			A
保護者アンケート	お子さんは、メディアを適切に使用していると思われますか。	肯定的回答 60%(とても 14%)	年間評価
			C

<資料>

取組状況			
教職員アンケート	レジュエンスの授業を行いましたか。	肯定的回答 50%(とても 6%)	
	生徒指導提要にある「発達支持・課題予防・困難課題」対応を意識して教育相談機能の向上に努めましたか。	肯定的回答 94%(とても 44%)	
	メディア教育を通して、家庭と連携してメディアとのつきあい方について考え、実行するように指導・支援することができましたか。	肯定的回答 77%(とても 18%)	

年間評価	総括（成果と課題）
	【レジリエンスについて】 ・逆境に負けないしなやかな心を育成するために、レジリエンスの授業を行った。年に4回取り入れることになっていたが、逆境を乗り越える力を付けるよりも、人との関わり方を身に付けていく方が優先と判断し、スクールカウンセラー（以下 SC）によるピア・サポートの授業を行った学年もあった。 ・行事などに取り入れて行えるピア・サポート活動とは違い、授業として行うレジリエンスは、教員の認知度にも差があることで、取り組みにくいということが一番の課題であった。 【教育相談について】 ・教育相談機能の向上のため、SC と連携し「相談箱」を職員室前と図書室の2カ所に設置した。児童が自ら相談できる力を身に付けられるよう、自分で用紙を書いて入れるようにした。家族や学校の先生に言えないことを SC に相談する児童もあり、SC との面談が身近になっている様子が見られた。また、1月の保健指導で SOS を出す教育を実施し、担任以外にも相談できる機会を設ける予定である。 【メディアについて】 ・1学期は実態調査を行い、全学年の結果をまとめ保護者に配布し、各家庭で夏休み中のメディアルールについて考えてもらった。2学期は保健指導や出前授業でメディアに関する取り組みを行い、e-ネットキャラバンの資料をもとに、冬休み中のメディアルールについて各家庭で考えてもらった。また、保護者にメディア使用に関して困っていることについてアンケートをとり、その結果をもとに委員会で取り組みを考え、3学期中に行う予定である。
	改善策
	【レジリエンスについて】 ・レジリエンスについての校内研修を行うなど、教員がさらに理解を深めることが求められる。また、児童の発達段階によっては、レジリエンスとともにソーシャルスキルの向上が求められる場合があるため、柔軟なカリキュラムで取り組んでいけるようにする必要がある。 【教育相談について】 ・児童の困りごとが深刻化しないように、児童が困ったときや悩んでいる時に、いつでも誰にでも相談できるような雰囲気と体制を作っていく。 【メディアについて】 ・メディア使用に関しては、保護者との連携が不可欠であり、家庭とともに取り組む方が効果的であるため、今後も保護者へ啓発を続けながら、児童がメディア機器を適切に使用できるように支援していく。 ・メディアトラブルに関して、児童がまだ知らないことがたくさんあるということがわかったので、今後も専門家に講演を依頼して、児童がトラブルに巻き込まれないよう学ぶ機会を設けていきたい。

心身を育む力

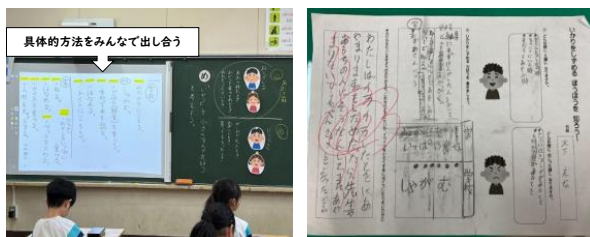
自らの心・体・生活を育む力

5年生

自分を励ます
しおりづくり



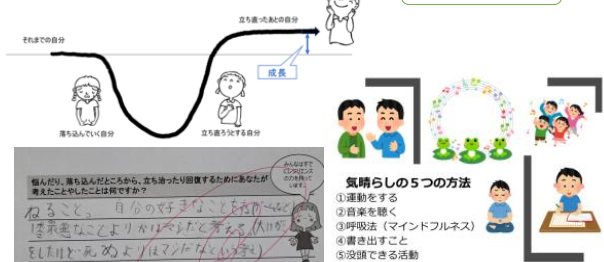
2年生 いかりをしずめる方法を知ろう



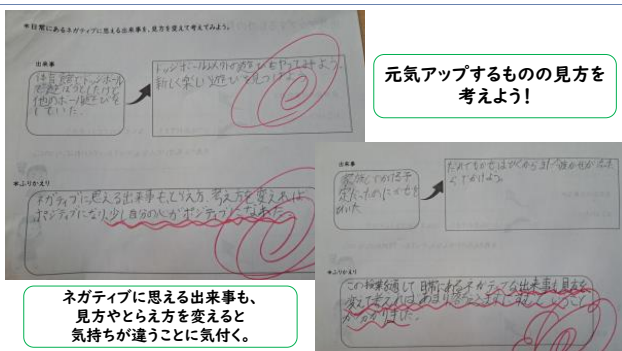
レジリエンスを知ろう

困難や逆境を乗り越え、成長していく力をレジリエンスと言います。

6年生



元気アップするものの見方を
考えよう!



誰でも
スクールカウンセラーに
相談できる環境づくり

相談箱
(職員室前・図書室前に設置)



相談箱を設置します。

いつでも未読先生に相談できるよう、相談したいこと、話を聞いてほしいことを書いて、「相談箱」に入れてください。どんな紙でもよいので、学年、クラス、名前と、書けそうならお話ししたいことを書いて入れてください。（下の用紙を使ってもよいです。）

松浦先生が未読先生とお話しする時間の調整をします。松浦先生以外が相談箱の年を見ることはありません。相談箱は「職員室前廊下」と「図書室」に置いてあります。

（ ） 年 （ ） 組 名前（ ）

スクールカウンセラーの先生にお話ししたいこと（書ける笑だけです）

相談箱に関するおたより

児童がSOSを出せるための取り組み

◎SOSの出し方に関する保健指導の実施（1月）

◎学級担任以外の教員に相談できる機会を設ける（アンケートの実施）（1月）

メディアに関する取り組み（1学期）

① 1学期実施 ② 1～2学期 ③ 2～3学期 ④ 3～4学期 ⑤ 4～5学期 ⑥ 5～6学期 ⑦ 6～7学期 ⑧ 7～8学期

メディアアンケートの結果

夏休み健康カレンダー

メディアに関する取り組み 2学期（保健指導・メディア教室）

1・2年生 保健指導でよくあるメディアトラブルの学習を実施

3～6年生 e-ネットキャラバンに依頼して、オンライン授業を実施

メディアに関する取り組み（冬休み前）

1 ネットいじめ（使いたくない）

2 ネットいじめ（相手がいやがる書き込み等はない）

3 楽しい情報のかき（情報を簡単に得た）

4 ネットのトラブルに気づけよう

5 個人情報（むやみに書かない）

6 ネット中毒（うまい話やうそのせいで夢中にたまされたい）

7 著作権・肖像権（人の写真やイラストは勝手に使わない）

e-ネットキャラバン啓発資料

冬休み健康カレンダー

メディアに関する取り組み（委員会）

メディアに関するアンケート 保護者の意見

結果をもとに保健委員会が取り組みを実施（3学期）

保護者アンケート結果

領域別評価表 【well beingを実現する学校】

数値指標 (本年度目標)	◎子どもは喜んで朝日小学校に通っている。保護者90%(とても50%) ◎朝日小学校で働くことにやりがいを感じている。教職員90%(とても50%)	中間評価
		B

達成状況			
保護者アンケート	お子さんは、喜んで朝日小学校に通っていると思われますか。	肯定的回答 91%(とても 44%)	中間評価
		■思う 44% ■だいたい思う 47% ■あまり思わない 8% ■思わない 1%	B
教職員アンケート	朝日小学校で働くことにやりがいを感じていますか。	肯定的回答 95%(とても 45%)	中間評価
		■感じている 45% ■だいたい感じている 50% ■あまり感じていない 0% ■感じていない 5%	B

<資料>

取組状況			
教職員アンケート	すべての児童に目を向けた働きかけや活動の設定を行いましたか。	肯定的回答 90%(とても 32%)	
		■行った 32% ■だいたい行った 58% ■あまり行えなかった 10% ■行えなかった 0%	
	「共生社会」や「インクルーシブ」の視点を意識した働きかけを行うことができましたか。	肯定的回答 95%(とても 40%)	
		■できた 40% ■だいたいできた 55% ■あまりできなかった 5% ■できなかった 0%	



5年生音楽の交流学習(インクルーシブ教育)



教職員による読み聞かせ(読書サークル活動)

年間評価	総括（成果と課題）
	・9割の保護者からわが子は喜んで学校に通っているという肯定的な回答を得た。保護者アンケートによると、児童たちの学びを楽しむ姿や友達とあたたかくつながる様子が肯定的な評価につながったことが伺える。これは、授業参観や家庭連絡アプリでの発信により、学校と児童・保護者の間でスクールプランに込められた願いを共有できたものと捉えたい。一方で、肯定的な回答を得ることができなかった1割の保護者については、その理由もアンケートからうかがい知ることができた。一つひとつの保護者の声に丁寧に耳を傾け、児童の幸せな学校生活を妨げる因子を除去する努力を続けていかねばならない。 ・国より研究指定を受け取り組んでいるインクルーシブな学校運営モデル事業では、4年生と5年生が清水特別支援学校の児童との交流学习を定期的に行った。この取組により、一人ひとりが大切なかけがえのない存在であること、相手の状況や気持ちを考え自然に優しく接することを児童は学び、未来の共生社会、地域社会の担い手の育成につながっている。また、児童の行動やクラスの雰囲気になかなかな変容が認められたり、教職員のインクルーシブ教育への理解も深まったりするなど、今後の魅力ある学級づくりのヒントとなる大変意義深い取組となった。 ・1学期には時間外在校等時間の平均が 45 時間を超える月があるなど、教職員にとっては様々な事業や問題対応で多忙感の拭えない日々であったのではないかとと思われる。しかしながら、年間を通じて9割を超える教職員がやりがいをもって教職にあたっていると回答した。これは、組織が協働的・創造的に物事に対応し、質の高い教育活動を丁寧に進めることができた実感できたからではないかと思われる。また、「サークル活動」を取り入れるなど教職員一人ひとりの関心や得意分野を校務に生かせるように努めたことも、やりがいの創出に効果があったのではないかと考える。
	改善策
	・①授業改善による学力保障、②「ことばの力」の育成、③インクルーシブな学級・学年作りの3点を魅力ある学校づくりのための課題であると認識し、取り組みを強化していきたい。 ・業務改善と教育の質の向上を一体的に進めていくために、管理職は、学校の課題や教職員の現状を的確に捉え、組織体制や取組内容を柔軟に見直すことに努めていきたい。これに加え、教職員が自身の職務を認識し自発的に行動できるよう、これまで以上にビジョンの共有を丁寧に行い、一人ひとりが自律しながらビジョンに向かって行動できるようにしたい。

令和6年度 学校関係者評価書

越前町立朝日小学校 学校関係者評価委員会

未来を拓く学力	授業づくり、ICT 活用、読書推進の取り組みについて具体的かつ多角的に述べられています。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立や探究学習の改善案が提示されており、教育の質を高める努力が見られます。また、「学びのサイクル」を強化する工夫や ICT のさらなる活用、図書環境の整備など、今後の課題も明確です。グループで考える活動や、小中合同の授業参観など、一層の課題に励む意欲が見られました。これらの取り組みは、児童の学習意欲や読書への関心を引き出すために重要であり、読書ボランティアの誕生や、地域との連携強化も有益だと感じました。特に、教員同士の協力体制を整える「みんなでトークタイム」は実効性があり、他校への共有が求められる実践例だと考えます。教育現場での課題解決に向けたさらなる工夫を期待しています。
幸せな社会を創る力	学校で行われているさまざまな活動に感動しています。ピア・サポート活動では、児童達が自他を認め合い、友情を大切にする姿勢が育まれていることが分かります。体育大会や児童会活動では、子ども達が積極的に協力し、楽しんでいる様子が見られ、学校全体の団結力を強く感じました。学校校則「生活のきまり」の実行委員会に沢山の児童達が主体的に立候補したことや、「縦割り班」での学びの成果も伺えます。しかし、いじめに関しては、心無い言葉を使う児童がいる現実と直面し、教育者の強い指導と共に、言葉の重要性について継続的に教育する必要があると感じます。人権教育や道徳教育を強化し、児童一人ひとりが優しさや思いやりを持って接することができるような環境を整えていくことが大切だと、また、保護者への情報共有や状況説明などの必要性も感じました。
健やかな心身	学校で実施している「レジリエンス教育」や「教育相談」の取り組みは、児童一人ひとりが困難を乗り越えられる力を育むために非常に重要です。特に、ピア・サポートやスクールカウンセラーとの連携で、悩みや問題を気軽に相談できる環境が整ってきた点が良いと感じました。「いかりをしずめる方法」や「逆境に負けない心」「弱いも強いも受け入れられる心」を育めるようさらなる指導をお願いしたいと思います。しかし、レジリエンス教育の実施に関しては、教員間の認知度に差があり、今後はさらに先生方の理解を進める必要があると思います。 メディア教育に関しては、保護者との協力が鍵であり、家庭と一緒に取り組んでいくことが大切だと感じます。トラブルを未然に防ぐための学びについて専門家を招いて行うことも、児童の成長に役立つと思いました。メディアを使用する際のメリットとデメリットを、児童も保護者も含めしっかりと指導して欲しいと思います。
Well being を実現する学校	学校で行われている取り組みが非常に多岐にわたり、児童にとって充実した学びの場となっていることがよく分かります。特に、インクルーシブ教育の実践やピア・サポート活動を通して、児童同士の理解が深まるとともに、共生社会に向けての第一歩が着実に踏み出されています。小中連携授業や、清水特別支援学校との交流授業はとても良かったと思います。9割以上の保護者が「喜んで学校に通っている」と肯定的な意見をもっている一方で、残りの保護者からの意見も重要であり、学力向上や学級内の雰囲気作りのさらなる改善が求められると感じました。家庭連絡アプリから保護者に対しての情報共有やアンケートが以前より活発化された点は良いと感じました。これからも、保護者と連携し、よりよい学校づくりに向けて努力していくことが大切だと思います。
学校全般その他	学校全体での取り組みは非常に充実しており、児童の学びを大切に、個々の成長を促すための環境作りが積極的に行われていることがよく分かります。ただ評価委員の思いとしては子供たちが学校を楽しみ、学びの大切さを知り、友達と仲良く過ごせる学校づくりを構築してほしいと願っております。朝日小学校の教育目標である三あの子、あかるい子、あたたかい子、あくまで頑張る子を育ていけるよう学校、保護者間でのさらなる協力、連携が必要不可欠です。先生方の負担が増えないような働き方改革での業務改善を取り入れ、先生方の負担軽減をぜひ実施してほしいと思います。 また今後、常磐小学校との学校再編も控えており、より大変になるかと思いますが子供たちのため、よろしくお願い致します。